



札幌大学 教授

札幌大学アイヌ文化教育研究センター長

本田 優子

HONDA YUKO

創

業70周年、心からお慶び申し上げます。盛大な60周年の式典からあつという間の10年でしたが、その間、バンデミックをものともせず素晴らしい施設を次々にオープンされたことに深く敬意を表します。

アイヌ文化を専門としている私は、2010年、アイヌの若者たちに奨学金を給付して大学進学のを保障することを第一の柱とするウレシバプロジェクトを導入し、その推進母体として札幌大学ウレシバクラブを創設しました。鶴雅グループ様には、スタート時からウレシバ・カンパニーとしてご支援いただいております。

おかげさまで多くの若者たちがアイヌ文化のプロとして各地で活躍しています。

また、私の周りではしばしば「アイヌの木彫工芸を鑑賞したいなら博物館よりもホテル鶴雅」という声が聞こえてきますが、ホテル内ギャラリーで瀧口政満先生、藤戸竹喜先生の作品群が放つ存在感と超絶技巧に基づく芸術性は、観る者を圧倒し魅了します。瀧口先生は2017年、藤戸先生は2018年に急逝され、残された者は呆然と涙するばかりでしたが、今でも鶴雅さんにさえ伺えばいつでも両巨匠の作品に魂を揺さぶられます。

す。そのような場を提供してくださっていることにあらためて心から感謝したいと思います。

また、木彫工芸のみならず、幅広いアイヌ芸術作品がグループホテル内に数え切れないほど展示されており、アイヌアートに対する固定的イメージを覆すとともに若手アーティストに活躍のための門戸を開いてくださっています。

大西代表は国のアイヌ政策において大きな役割を果たしてこられました。それは阿寒湖のアイヌの方々とのこれまでの信頼関係によつて育まれたものだと私は確信しています。大西代

表をはじめとする鶴雅グループの皆さまのアイヌ民族およびアイヌ文化へのリスペクトが、パワフルで創造性に満ちたアイヌコタンを支え、それが2024年の阿寒アイヌクラフトセンター「ハリキ」の開設にも結びつきました。

北海道は、大自然すなわちカミイと人間との関係性を深く学ぶことのできる唯一無二の大地です。どうかこれからも、その豊かさの可能性を全世界に向けて発信していただけますよう、益々のご発展を祈念いたします。